

4.7 PC 構成サーバ

柴田 章博

4.7.1 PC 構成サーバの概要

デスクトップ PC のインストール・セットアップ作業やセキュリティー対策などの管理作業コストを軽減させることを目的として、PC 構成サーバを設置した。

PC 構成サーバでは、(a) PC の構成情報の収集 (b) ソフトウェアのインストールや環境設定の自動実行 (c) 基本ソフト (OS) やセキュリティー対策ソフトの自動更新 (d) 定期的に収集した各 PC 構成情報に基づき、自動メンテナンス (e) 研究や業務に必要な主要な有償ソフトウェアのライセンス管理と配布などのサービスと提供している。

現在は、Windows XP, Windows Vista, 今年度から Windows 7 (32bit) の稼働する PC を対象としており、機構 LAN を経由した遠隔支援のサービスを提供している。運用管理室で貸出している「プレゼンテーション用 PC」や研究系の事務室などが主要ユーザである。これらのサービスは、さまざまなグループの利用目的に合わせたソフトウェア構成に対応できるように、(1) PC 構成サーバであらかじめスケジュールされたプログラムに従い、自動実行されるものと、(2) メニュー形式によってユーザが選択的に実行するものとで構成されている。

4.7.2 運用と課題

4.7.2.1 Windows 7 への対応

2009 年度暮れに新しい基本ソフト (OS) Windows 7 がリリースされた。PC 構成サーバのサービスを構築しているソフトウェアは、OS に係る情報の収集など、OS に依存した部分を多く含んでおり、新しい OS へ対応するために様々な変更が求められ、基幹ソフトウェアのリリースされるまでに Windows 7 発表後 4 カ月余り遅れた。一方で、PC 構成サーバ側は、プリンタードライバーなど配布ソフトを Windows 7 版と置き換えるなどの最小限のものに抑えられ、提供ソフトウェアの新しい OS への対応状況の確認と参照環境における動作確認などの作業でサービス提供までに 1 月弱の作業時間を要した。

Windows 7 は、32 ビット版の 3Gbyte のメモリーの壁を破るため 64 ビット版の普及が進んだ。しかしながら、基幹ソフトウェアの対応は、1 年たってもそのスケジュールすら示されないままとなった。そのため、Windows 7 に切り替えるために、64 ビット版への移行をしたユーザは、PC 構成サーバの利用を取りやめる事例が散見された。

4.7.2.2 標準環境の完全自動管理

現在の PC 構成サーバの運用で配布するソフトウェアは、基本構成ソフトウェア、標準構

成ソフトウェア、追加ソフトウェアの3種類の構成となっており、基本構成ソフトウェアと重大なセキュリティーパッチのみが自動更新の対象となっている。多くは、PC 構成サーバからインストール・環境設定・変更のメニューを提供し、メニューから必要項目を選択・実行してもらう方式を行っている。

もう一つの選択肢として、完全自動管理を行う方策について R&D を進めてきた。PC 構成サーバ配下の PC の新たな管理グループを作成し、完全自動管理のグループに属する PC のみに対して、完全自動化のサービスを適用するように行うものである。プレゼンテーション用 PC にたいして適用をした。現在、一般の PC を対象として参照構成（標準構成）を定めサービスを提供するための準備を行っている。